
コードギアス・センチネル

に ゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コードギアス・センチネル

【Zコード】

N4017BA

【作者名】

にゃん

【あらすじ】

センチネルをこよなく愛する少年はバグったように死んでしまった。しかし、美しく麗しい それでいて清楚な女神様の計らいでコードギアスの世界を楽しませていただける事に、 、 、

始まり

皇暦2010年8月10日の出来事である。

神聖ブリタニア帝国は日本に宣戦布告した。

当時の兵力は防衛の域を出ないものだったため、敗戦した。
巨大人型兵器 KMF 通称ナイトメアフレームの前に成す術もなく散つていった。

何故、こんな事を解説しているかといつと 少し時を遡る必要がある

「カツコイイー！！さすがセンチネルシリーズだ！」

部屋の中で歓喜している少年の手に握られているのは、わざわざ自作したプラスチックモデルだ

「いいよな。このフォルム。ゴツゴツした感じがたまらん！！」
いわゆるガンダムオタクという人種だ

-メキメキ -

発ててはいけないような音を発てプラスチックモデル その様はまるでバグを起こしたゲームのグラフィックだった

「は、あ、？」

明日は我が身という言葉通り自身の身体もバラバラになる
少年は理解が追い付かず、そのまま意識を失った

「じめん。じめん」

自室でサイコロにされた自分を見ながら少年は何故、謝られている
か考えた

「…もしかして、俺が死んだのって…」

「ぞつづらーいと…私が、…やつちやつたんだぜ…」

「、、「どうすんの?」「」

自分の死体を指差し、問う

「治したい?」

「当たり前だろ!――頑張つて、頑張つて作ったのに――!」

「そつちかよ!――、まあソレも含めて私の落ち度だし、、、治してあげましょ!――!」

「、、「

「ん? どつたの?」

「治すとか治さないとか、、アンタ何もんだよ」

「よぐぞ聞いてくれました!――私は何を隠そう神様なのでえす!――!」

「鬱陶しい性格した神様だな」

「あれあれ? 反応がいまいっちんぐマチコ先生だね」

「古いし、寒い。論より証拠だよ、世の中」

「さばさばした性格だねえ。まあ、今すぐ治る訳じゃないし、、、

どこかに行こう!――!」

「海に行こうみたいなノリで言われてもな、、、どう行くんだよ」

「ううん、、、。あつ! 私コードギアスの世界に行きたい!――! けつて

「い」

「はあ、、、。血口中心的な思考回路だな」

「そりや、神ですか?」

えつへんと言わんばかりの格好はあまりにも神とは言えなかつた
「で、行くとも決まつたわけだし、、、私は無双する感じがいい
な? ?」

「本音は?」

「死んだりするとめんどくさい」

「ぶっちゃけたな」

「何にする? 何にする? ナイトメアフレームは何にする? ?

「鬱陶しい。、、そうだなセンチネルの機体がいいな」

「、、、。じゃあ無双しやすいように色々弄る」

「何だよ、、あからさまに嫌そうな顔して」

「何でも無い」

「まあ良いや。原型留める程度に頼むよ」

「ああ。つまんない。厨一臭いアイデア出して貰うと想つたのに、こ、こ、このまま死んでればよかつたのに」

「何だと!!」

少年が走り出した途端 床が抜け 少年は何処とも知らぬ場所へと
落下した

始まつた

、 、 以上が説明しなければならない理由である

「スゲー！」

少年の前には確かにセンチネルシリーズの機体が鎮座していた
「頑張つたからな！！」

「何で居るんだよ」

「いいじやないか！元々、私が来たかつたんだし」

「 、 、 ところで何を弄つたんだ？」

「制約を無くした。なんと！ ALICEたんとイチャイチャできる
よ！」

「 、 、 」

相変わらずの鬱陶しさだと少年は落胆する

「どうすんの？私的には第三勢力となつて介入つてのが一番グッと
くるんだけど」

「それじやあラクシャータが手に入らないだろ」

「あんな年増要らないさ！！私がいるからな！」

「自信満々だな」

「ソレ造つたの私ダゾ？」

ウインクしながら指を指す つまり、一機体を造つたのは自分だ。
技術者など要らない という事だつた「死んだらお前の責任だぞ」

「分かつてゐる。分かつてる」

かくして、話がまとまつてしまつた

・

EX-S 一機 FANZ 四機 Zplus 四機 MK-V
一機 という無双をしやすいように数を揃えたのに 構成メンバ

――人という悲しい現実である

「第三勢力はいいけどさ、人集まりにくそうじゃないか?」

「、宗教と同じだ」

「? 何だそれ」

「ブリタニアにつくか、黒の騎士団につくかのどちらかしかないから日本人は黒の騎士団についたんだよ。お馬鹿ちん」

「、なるほどね」

我慢我慢と心に言つ

「そういえば今何年?」

「2017年」

「は?」

「そういえば今日はクロヴィスが殺される日だぞ。でも、ユフィたんは助けないとな!!」

バカな事だ。言つてしまえば気が早かつた

「唐突すぎる!! 現在地は?」

「ここか? ここはな新宿の地下だ。安心しろー後もつ数分でブリタニア軍が来るぞ」

安心したのが間違いといつものだらう 出会つてからの会話で少し、いや、凄く変だといつことが分かつていたのにと少年は自身の愚かさを嘆いた

「ALICEがいるだろー泣くな! ヘタレめ」

「全部お前のせいだろ!!」

無駄な喧嘩をしていると頭上から多数の悲鳴が聞こえ始めた

「ヤバイ!!」

少年はEX-Sに乗り込む

『EX-S起動します。パイロットの固定化をします。、完了。ALICEシステムの起動も滞り無く、完了しました』

始まつた（後書き）

「次回は残念だが人物紹介だ。私の事をたくさん知ってくれたまえ。
フハハハ」

人物紹介（前書き）

残念ながら大気圏外の戦闘はありません

人物紹介

種野 亮

16歳

ゴツゴツした物が好きでセンチネルをこよなく愛する少年
無駄な事を好み 誰からも理解されないことが自分の行動理由になる事が多い

名前はリョウ・ルーツから

神

女性である事以外話さない 年齢は永遠の16歳だという
変な事を好み ややレズチックな性格をしている
暇を嫌つていて、いつも何か起こそうとしている

A L I C E

EX-Sに積まれた人工知能 パイロットの感情 特に恋愛感情を
読み取るのに特化されたパチもんA L I C E

改造されたため、EX-Sは分離からの合体も可能になっている

F A Z Z

重装甲の割りに飾りだつた部分が多い為、稼働出来るよう改造された機体 現在乗り手無し

Z plus MK-Vは大した改造はされなかつた 、、、

スザクいじめ

「戦闘が始まつたとはいえ、何処にいるかまではさすがに解らないな」

『この先の頭上に敵機がいます』

「イレブン風情が！」

（シンジコクゲッターを壊滅など容易い。武器を持たぬ者を殺すのは容易いな！）

・ペペペ

「なんだ？、ぬわつ！」

いきなり地面から手が突き出るとグラスゴーの足を掴み、地下へと引きずり落とす

「な、何者だ！」

赤い一つの目のようなものが光る

それは静かに近づくとグラスゴーを完全に沈黙させた

「、、、何をしたんだ！ ヤツは！ モニターにも何も映らん。どうなつて！ グシャ

『敵機沈黙』

「えげつないな」

『仕方ありません。戦争ですから』

『こんなのA L I C Eじゃない』

『感情移入しやすいように設計されました』

「、、、まあいい。次だ次」

ブースターで上に昇る

「、、、どうやらルーシュは動いているようだな」

『「Jのままでは出番が無くなりそうですが、

「、、、スザクを叩く」

『「了解』

（ランスロットなら初舞台に丁度良い）

『三時の方向に敵機、、、御望みの彼です』

「よしーやるぞ。売名！..」

ブースターの威力を頼んだ体当たりを仕掛ける

「ALICE。オープンだ。」

『「、、完』』

「よお！..お前がスザクだな！」

「、、何者だ！何故僕の名前を知つている！」「細かい事を気にす
んな。エネルギーが尽きるまで戦おうじゃねえか！..」

「いいだろう！..」

『「来ます』

「分かつてゐる」

「グッ、、なかなかの遣り手だねえ。あの気持ち悪いの、、、「
「気持ち悪いかはさておいても、、スペックなら互角かそれ以上、、
、」
「スザクくんを呼び戻してちょーだい。ランスロットを此処で壊さ
れるわけにはいかないからね」

「帰投、、、ですか？」

「なんだ？帰るのか？」

「見逃してはくれないんだろう？」

「いいや。今回は売名目的で来たからな

「、、、変わつてゐるんだな」

「よく言われるよ」

・

・

『良かつたのですか』

「良いんだ。ランスロットは破壊しないにこしたことはない。帰るぞ」

「帰つたぞ。、何で連れて来た?」

「ん~?クロヴィスが死亡するといふ話はいこけど。第三勢力となつて動くとなると確実に必要になるとと思つて」

「私を監禁するという事がどれほどの罪か分かつてゐるのか!」

「別に逃してもいいけど、ルルーシュちゃんに殺されちゃうかもよ?」

「グ、分かつた。ただし!私の命は守つてもらひたい。」

「死体は?死体はどうした?」

「そこらへんに居た奴をそれ~つぱくしたからモウ~マン~タイ~」

「本国の言葉くらい尊重しろよ」

「細かい事を気にすんな。エネルギーが死めるまで戦おうじやねえか!!」

「いいだらう!~」

スザクいじめ（後書き）

「まだ支離滅裂だな！」
「仕方がないだろ。きっと作者が「ミコ障なんだ」
「かわいそうだと思えないくらい他人事だな！」
「まったくだ。しかし、進歩の無い作者は死んだ方がいいぞ」チラッ
「その通り」チラッ
善処します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4017ba/>

コードギアス・センチネル

2012年1月10日20時49分発行